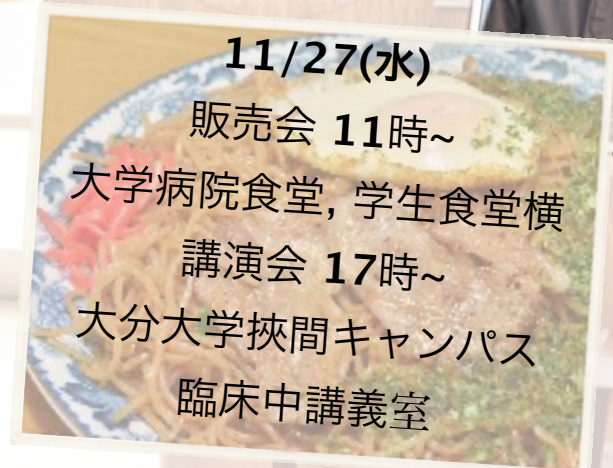


震災から2年。大分から1200kmの東北。 被災者と医大生の見た現実



あの震災が起こった時、僕は何もできなかった...

あの震災が起こった当時、遠い九州の地に住んでいて何もできなかった歯がゆさを今でも鮮明に覚えています。ハード面から再生しつつあるように見えますが、被災した人々の本当の意味での復興は、まだこれから始まるのだと思っています。

忘れないこと。 それが一番の支援

同じ国に住む人間として、周りの人たちにも東北を忘れてほしくない、距離は離れていても心は繋がっていてほしいと願っています。

また皆に食べてもらいたい

今回、石巻で被災された宇都宮さんをお招きし、東日本大震災

に関連する講演会を開催いたします。

宇都宮さんは石巻市で3代続く定食屋を営んでいましたが、震災で店舗を失いました。しかし、多くの地元住民からの希望により、現在は店舗を復活させ、また東北でも精力的に復興活動をされております。

講演内容

1. 東北最大の被災地石巻の現状と今後
2. ボランティア活動と自分
3. 震災時の行動と防災について
4. 心の支援
5. 考えるよりまず行動

50年間守られ続けてきた おばあさんの味

また今回、講演と同日に、うつのみや食堂に代々つづく「焼きそば」を200食限定で販売いたします。サバ出汁と2度蒸し麺を

使った初

代いつおばあちゃんが作り出した味は絶品です。今回の売り上げはすべて復興支援としてあてさせていただきます。

医者を志すものとして

今回の講演・販売会は、2人の医学生が自主的に東北へボランティアに行ったことがきっかけでした。被災地で起きていることは、実は大分でも起こりうる問題でもあります。将来の医療者として、多くの医学生に東北の実態をしり、できれば体験してほしい。そんな思いで今回の講演会の企画を立ち上げました。今後もこのつながりを絶やさず、スタディツアー等を企画し多くの人々が東北に関われる機会を設けていく予定です。

お問い合わせ先 大分大学医学部
4年 鴻江 蘭